

財務諸表

1. 貸借対照表
(2025 年 3月31日現在) (単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
流動資産	6,411,240	7,439,675	-1,028,435
固定資産	29,636,584	26,424,997	3,211,587
基本財産	10,000,000	10,000,000	0
特定資産	19,636,584	16,424,997	3,211,587
資産合計	36,047,824	33,864,672	2,183,152
II 負債の部			
流動負債	2,163,008	2,227,518	-64,510
固定負債	222,700	0	222,700
負債合計	2,385,708	2,227,518	158,190
III 正味財産の部			
指定正味財産	29,636,584	26,424,997	3,211,587
寄付金 (基本財産)	10,000,000	10,000,000	0
受取寄付金	19,636,584	16,424,997	3,211,587
一般正味財産	4,025,532	5,212,157	-1,186,625
正味財産合計	33,662,116	31,637,154	2,024,962
負債及び正味財産合計	36,047,824	33,864,672	2,183,152

2. 正味財産増減計算書
(2024 年 4月1日 ~ 2025 年 3月31日) (単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
経常収益	33,960,545	35,180,467	-1,219,922
基本財産運用益	170	233	-63
賛助会員受取会費	15,874,240	13,660,000	2,214,240
受取寄付金	15,086,086	21,082,279	-5,996,193
受取助成金	1,260,000	0	1,260,000
受取補助金	1,733,500	437,898	1,295,602
雑収益	6,549	57	6,492
経常費用	35,147,170	31,753,449	3,393,721
事業費	31,733,087	28,782,500	2,950,587
管理費	3,414,083	2,970,949	443,134
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-1,186,625	3,427,018	-4,613,643
一般正味財産期首残高	5,212,157	1,785,139	3,427,018
一般正味財産期末残高	4,025,532	5,212,157	-1,186,625
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	17,701,338	17,432,383	268,955
特定資産運用益	10,249	107	10,142
一般正味財産への振替額	-14,500,000	-20,000,880	5,500,880
当期指定正味財産増減額	3,211,587	-2,568,390	5,779,977
指定正味財産期首残高	26,424,997	28,993,387	-2,568,390
指定正味財産期末残高	29,636,584	26,424,997	3,211,587
III 正味財産期末残高	33,662,116	31,637,154	2,024,962

組織概要<2025年度定時評議員会終了時点>

- ・理事長
藤田 順子 生活協同組合パルシステム神奈川 理事長
- ・専務理事
坂本 希 生活協同組合パルシステム神奈川 業務執行理事
- ・理事
石井 正宏 NPO法人パノラマ 理事長
荻原 妙子 公益財団法人かながわ生き活き市民基金 理事長
関 英昭 青山学院大学 名誉教授
高橋 温 弁護士 新横浜法律事務所
認定NPO法人子どもセンターてんぽ 理事長
長島 由佳 料理研究家・食育コーディネーター
横浜市食育推進検討部会委員・人権擁護委員
認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川 副会長
- 林 直美 株式会社神奈川教弘 事業推進部長
- ・監事
小門 謙 NPO法人ぐるっと緑道 理事長
野上 憲王 中央労働金庫 神奈川県本部 営業担当部長
- ・評議員
網野 拓男 生活協同組合パルシステム神奈川 専務理事
梅村 敏幸 元中央労働金庫職員
一般社団法人協同組合研究所 監事
篠田 学 神奈川新聞社 取締役クロスメディア営業局長
田中 知巳 神奈川県生活協同組合連合会 代表理事専務
永岡 鉄平 NPO法人フェアスタートサポート 代表理事
中根 裕 一般社団法人くらしサポート・ウィズ 専務理事
本田 正男 弁護士 川崎総合法律事務所
かわさき子どもの貧困問題研究会 代表
山藤 公一 城南信用金庫 名誉顧問
一般社団法人 しんきん成年後見サポート 顧問
吉中 季子 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 准教授
渡部さと子 生活協同組合パルシステム神奈川 常任理事

ご支援・ご協力のみなさま

- 賛助会員【14団体】
安藤法律事務所 様
NPO法人イエロー・エンジェル 様
神奈川県労働者福祉協議会 様
SBSゼンツウ株式会社 様
株式会社イノセント 様
株式会社カジノヤ 様
株式会社戸田酒販 様
株式会社流通サービス 様
株式会社ロジカル 様
共生食品株式会社 様
生活協同組合パルシステム神奈川 様
平田産業有限会社 様
有限会社パーク 様
他
- 賛助会員【個人】 26名
- ご寄付
コンチネンタル・オートポータティブ株式会社 様
- ご寄付【個人】 14名
- ゆめつなぐ応援団 55名
- 神奈川ゆめ奨学生サポーター 4,042名
- 協力企業・協力団体
一般社団法人インクルージョンネットかながわ 様
NPO法人セカンドリーグ神奈川 様
NPO法人パノラマ 様
小田原林青会 様
神奈川県労働者福祉協議会 様
株式会社ウイングシステム 様
株式会社神奈川新聞社 様
株式会社フェアスタート 様
株式会社パルブレッド 様
株式会社パル・ミート 様
公益財団法人よこはまユース 様
公益社団法人フードバンクかながわ 様
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 様
城南信用金庫 様
西嶋医院 様
認定NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク 様
はちどりの畑 様
横浜市立大学ボランティア支援室 様
横浜市野島青少年研修センター 様

神奈川ゆめ奨学金だより

2024 年度事業報告書

理事長あいさつ

日頃より、神奈川ゆめ社会福祉財団の事業にご賛同くださり、高校生の学生生活を暖かく応援していただきまして、誠にありがとうございます。

当財団は、奨学金の給付のみならず、奨学生の暮らしや心に寄り添い、相談などにも細やかに対応しています。また様々な交流の機会によって、奨学生同士の横の繋がりもできているようで、その様子はとても微笑ましく、周りの大人はそっと見守っております。

日頃奨学生に寄り添い、伴走支援をしているのは財団事務局ですが、交流の場には役員も参加し、奨学生と共に楽しいひと時を過ごさせていただくことがあります。卒業お祝い会では、大学進学にあたり、将来に向けた想いを聞かせてくれた奨学生や、勉強の支援をしてくれた大学生と進路を喜びあう奨学生の姿を拝見し、このような子どもたちの笑顔につながる応援をさせていただけることを大変ありがたく思います。

今後子どもたちが未来に明るい希望を見いだせる、そんな気持ちになれるよう財団事務局一同、運営をして参りたいと思います。変わらぬお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人 神奈川ゆめ社会福祉財団
理事長 藤田 順子





はじめに

2023 年 4 月、神奈川県からの公益認定を受け、私たちは「公益財団法人神奈川ゆめ社会福祉財団」として活動を続けています。高校卒業後もサポートが必要な若者たちに対し、希望に応じて、将来の自立に向けた伴走支援を途切れることなく提供し、彼らの未来を力強く応援していきます。



奨学金給付事業

2024 年度の神奈川ゆめ奨学生（以下奨学生）の採用実績は第 1 区分 19 名、第 2 区分 4 名、合計 23 名となり、総勢 64 名に給付を行いました。2025 年 3 月には 19 名が卒業し、進路先は大学進学 13 名、専門学校進学 1 名、就職 3 名、その他 2 名となりました。採用状況から神奈川県全域に神奈川ゆめ奨学金の周知がされています。

神奈川ゆめ奨学生採用人数

	第 1 区分	第 2 区分	合計
2018年度	11	1	12
2019年度	11	0	11
2020年度	12	0	12
2021年度	12	2	14
2022年度	15	5	20
2023年度	20	4	24
2024年度	19	4	23
2025年度	20	0	20

奨学生 2 名は要件別に、第 1 区分、第 2 区分としています。
※共通要件として、神奈川県内に在住の方、市町村民税所得割額が非課税世帯の方で、財団が企画するサポート活動などに参加する意思のある方。
※第 1 区分は、高等学校（全日制課程、定時制課程、通信制課程）、中等教育学校の後期課程、専修学校高等課程に入学を予定する方。
※第 2 区分は、高等学校（全日制課程、定時制課程、通信制課程）、中等教育学校の後期課程、専修学校高等課程に在学中で支援団体等の推薦を受けた方。
※その他 2 名は、大学進学準備中、就職準備中の方。



奨学生等支援事業

公益財団法人移行 2 年目を迎え、「子どもたちが未来に希望を持ち自分らしく生きていける」社会の実現を目指し、高校生への給付型奨学金の給付に加え、地域団体との連携によるきめ細やかな伴走支援を心がけ展開しました。また、こども基本法の施行を受け、こども真ん中社会の実現に向けて、当事者本意の支援を心がけ、子どもたちの声に耳を傾けながら、一人ひとりの状況に寄り添った支援を実践しました。学習支援「まなびれっじ」や LINE 等を通じた日常的なやり取りの中でも、さまざまな困りごとが寄せられており、さらなる行政や地域で活動する支援団体との連携の必要性を感じました。

1. 学習支援「まなびれっじ」

2024 年度は、9 回開催し、延べ 78 名が参加しました。個別指導やグループ学習に加え、大学生や他の奨学生との交流機会を積極的に設けることで、子どもたちは多様な価値観に触れ、新たな学びの視点を得ることができました。上級生との関わりを通じて、学習へのモチベーションが向上しただけでなく、将来の目標がより明確になるなど、内面的な成長も多く見受けられました。この活動は、皆様からの温かいご支援とご協力に支えられています。



大学進学生とその保護者の間で、大学無償化制度の存在自体を知らない、制度の対象範囲や条件、手続きについて誤解したまま、進学しているケースも複数あり、正しい情報提供と進学先の学費に沿った相談支援を行いました。2025 年度からは、進路を決定する前の段階で制度の存在を広く周知し、誤解や無関心を解消することでより多くの奨学生が支援を受けられるように必要性を感じました。

2. 家庭学習支援

教育機会の確保を目的に、奨学生の要望により、3 回の自習の機会、4 回の個別学習支援（ボランティア付き）、を提供し、自習やオンライン英会話の学習の機会を提供しました。また、希望者 8 名を対象に、学校で使用する PC 機器購入費の一部を支給しました。

3. キャリア支援

奨学生に対して 31 件、卒業生に対して 5 件のキャリア相談を実施しました。希望者には、保育園での職場見学や業種理解を深めるための IT 企業訪問も行いました。IT 企業を訪問した奨学生のうち 1 名は、企業のサポートを受けながら国家資格である「IT パスポート」の取得を目指して学習を進めています。これらの取り組みを通じて、進路選択に向けた具体的な行動や学びにつながっていることが確認できました。

【職場見学で大倉山の保育園を訪れた学生の感想】

保育園に自分が通っていた頃とだいぶ変わっていたので驚きました。見学をしたことで心理学の必要性を感じたので、保育専門学校の選択科目で心理学を選択することにしました。

また、職業興味検査を通じて自己理解を深め、現在の興味関心から将来の職業に結びつけることを目的に、学年を問わず希望者全員（16 名）に実施しました。検査後、高校 1 年生からは「自分の将来について考えるきっかけになった」との声があり、3 年生からは「検査結果をもとに保護者と話し合い、事務職での就職を決めた」との報告がありました。これらの反応から、職業興味検査が進路決定における有効な選択肢の一つとして機能していることが確認できました。



4. 相談支援

財団奨学生 1 名、保護者 5 名に相談支援を実施。主な相談内容はテスト前の対策、保護者からは、子育てや保護者自身の不調、就労問題、将来に対する不安など、さまざまな悩みごとが寄せられました。

5. 文化的・社会的体験の機会の提供

文部科学省によると、体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されています。財団では、地域団体よりご寄贈頂いたチケットを希望者に配布、財団より交通費を給付し、体験の機会に繋がりました。

【展覧会「ヨシタケシンスケ展かもしれない」の感想】

- 一つ一つの細かい部分にこだわりが見られ心が惹きつけられました。このような機会を作って頂きありがとうございました。
- 昔読んでいた絵本の展覧会に家族みんなで行って受験勉強の間の息抜きと高校生活最後の夏休みのいい思い出にすることができました。ありがとうございました！



ご協力のみなさま：株式会社神奈川新聞社様、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会様、はちどりの畑様

6. 交流会

夏の交流会(BBQ交流会)

夏の交流会では、バーベキューを行い、奨学生の中にはバーベキューが初めてという奨学生もあり大変有意義な交流の場となり、夏の思い出深い一日となりました。

【バーベキューの感想】

- 奨学生同士も初対面でも、仲良くできていたのがとてもよかった。大学生との交流やいろんな人との交わりができて、とてもいい経験とBBQでより楽しく忘れられない思い出を作ることができました！
- 普段喋ったことのなかった奨学生や大学生とも喋れたことが楽しかった。



秋の交流会

「やりたいことから進路をみつけよう！ツアー in 立教大学」COAs 様ご協力。キャンパス訪問、グループワークを通じて財団奨学生に大学生活のイメージを具体的にしてもらい、進路選択の軸になるようなやりたいことを見つけてもらうことを目的に企画しました。



広報・啓発事業

1. こども基本法の施行を受け、こども真ん中社会の実現に向けた意識啓蒙を目的とした講演会を実施

「若者が主役になれる社会とは ～大人が果たすべき役割～」

講演者 土肥 潤也 氏（NPO法人わかものまち代表理事）
開催日 2024年6月7日
会 場 波止場会館(横浜市港湾労働会館)
来場者 42名 オンライン参加 38名 参加者合計 80名



2024年度卒業生のコメント

■金銭面の問題が大きく経済的にも困っていたので、ひとり親の家庭にとってこういったお金の給付や物資の提供は本当に助かりました。今後このような家庭の人たちや金銭面経済面に困っている人達のことを支えていただけると本当にありがたいと感じます。本当にありがとうございました。

【秋の交流会の感想】

- 大学生や見学に行った仲間と楽しい時間を過ごせたので、非常によかった。1 限の時間が100分と非常に長いのが気になった。
- ネット上で調べて得た知識とは違って実際に見学をしたことで新たな気づきがたくさんあり、大学進学へモチベーションがより高まった。
- 自分の中にあるビジョンを可視化することで思考が整理されてよかった。大学にやっぱり行きたいと思った！
- （ワークショップで）もう少し時間が欲しかった。自分の未来をしっかり想像できなかったので、思うようなものが出来なかった。



クリスマス会

財団奨学生 15 名、卒業生 2 名がしめ縄作り、キンパ作りやゲームをして親睦を深めました。

【クリスマス会の感想】

- 経験したことがない体験で新鮮味があって楽しかったです（しめ縄作り）。
- 自分の食べるものを自分で作る体験が楽しかった（キンパ作り）。
- チーム戦だったので仲間意識が持ててよかった。ゲームをすると普通に話していたら話さないようなことまで話が引き出せて、楽しい時間だった（ゲーム）。



卒業お祝い会

財団奨学生 7 名、ボランティア大学生 2 名が参加し、記念品贈呈や長島理事の手作り弁当で高校を卒業する奨学生を祝いました。



7. 伴走支援

パルシステム給付型奨学金の採用者（7 名）への伴奏支援や、助成金を活用したきめ細やかな伴奏支援を奨学生や卒業生に行うことができました。

- かながわつばさプロジェクト
- ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業

2. 財団キャラクター「きもちちゃん」の決定

作者は、神奈川ゆめ奨学生の卒業生で、現在は美術大学の学生です。キャラクターコンセプトや説明は以下の通り「モチーフは心臓。ココロの世界に住んでいます。のんびり穏やかな性格で何でも一生懸命のがんばり屋さん。他の人の気持ちを読み取りすぎて疲れてしまうことも…。思春期の繊細な心の動きや成長をこの「きもちちゃん」の世界で表現していきます。」

・キャラクターネームは、財団奨学生、ゆめつなぐ応援団の投票で決定しました。今後は、イベント、広報物などにキャラクターを活用し、財団認知度向上を図っていきます。

